

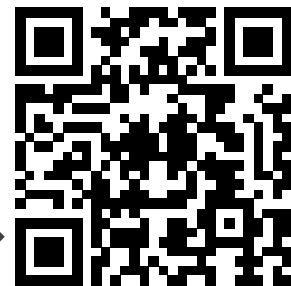
ランピースキン病の最新情報

11月6日以降、福岡県の18農場(乳16、乳肉1、肉1)、
熊本県の2農場(乳1、乳肉1)で発生 (R6.12.16現在)

症状は、皮膚の結節、発熱、泌乳量減少など

蚊・サシバエ・ダニの媒介や感染した牛の移動で感染が拡大

ランピースキン病についての最新情報は、こちらから →



<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/lzd.html> (農水省HP)

福岡県では発生農場から半径20km以内でワクチン接種を開始 (11/21~)

【ワクチン接種による対米輸出への影響】

- ワクチン接種県の牛は、米国向け輸出牛肉取扱施設(※)に搬入不可
- 米国向け牛肉輸出は、ワクチン非接種県の施設からのみ
- 出荷時にワクチン接種牛と非接種牛は同乗させない
(ワクチン接種牛の産子はワクチン接種牛とはなりません)
※ 県内の施設は、飛騨食肉センター (飛騨ミート農業協同組合連合会)

【ワクチン接種県の対応】

- ワクチン接種牛には、1頭ごとにワクチン接種証明書を発行
- ワクチン接種牛の取引・移動時には、ワクチン接種証明書が添付
※ 日本国内でのワクチン接種県は「福岡県」のみ

車両や人もウイルスを運ぶ可能性があります

農場に出入りする全ての車両は洗淨・消毒、殺虫を徹底!

車内に入り込んだサシバエ等も、確実に殺虫!

本病を疑う牛を見つけた場合には

～発症牛の隔離、速やかに獣医師、家畜保健衛生所に連絡を～

東濃家畜保健衛生所

TEL : 0573-26-1111 (内394) FAX : 0573-25-7669

休日・夜間に連絡の必要な場合は、警備室0573-26-1114 に電話し、
「家畜保健衛生所に緊急に連絡が必要」とお伝えください。

ランピースキン病の感染拡大防止！

車両や人による

農場から農場への伝播を防止しましょう

ランピースキン病は、主にサシバ工等による機械的伝播により感染が拡大しますが、車両や人もウイルスを運ぶ可能性があります。

車両がウイルスを運ばないために

農場の自家用車、集乳車、飼料運搬車、獣医師、人工授精師、薬品・資材業者、家畜運搬業者、関係団体など農場に出入りする全ての車両

- 農場に出入りする**全ての車両**は**洗浄・消毒、殺虫**を徹底！
- **車内に入り込んだサシバ工等**も、確実に殺虫！

特に寒い時期、サシバ工等は温かい車両に集まりやすく、車内にも侵入します。

車体に
集まったハ工



資材（牧草ロールや敷料など）にもサシバ工等が入り込む可能性があるため、搬入時確認！

人がウイルスを運ばないために

特に獣医師、人工授精師等、牛に直接接触れる者

- 農場ごとに**専用の衣服、長靴（ブーツカバー）**交換の徹底！
- **注射針、人工授精用器具等**は確実に一頭ごとに交換又は消毒
- **聴診器等、皮膚に接触する器具**も適切に消毒！

農場から農場への感染拡大防止！

